

わが国における緊急な保護を必要とする植物群落の現状と対策

RED DATA BOOK
of PLANT COMMUNITIES
IN JAPANわが国における保護上重要な植物
および植物群落研究委員会植物分
科会 / 編・著(財)日本自然保護協会 (NACS-
J) (財)世界自然保護基金日本委
員会 (WWF Japan) 発行

植物群落

レッドデータブック

1996

本

書は、サブタイトルどおり、「わが国における緊急な保護を必要とする植物群落の現状と対策」を紹介したものであり、対象となる群落について、概要、調査群落数、分布、面積、現状と保護対策、植物生態学的特徴、緊急に保護対策を要する群落等が記載されています。

環境庁による「特定植物群落」等、本書以前の植物群落の評価は、自然性の高く、学術的に貴重な群落が重視されている、という印象がありました。

しかし、本書の中に扱われている群落は、あくまで保護対策の必要性・緊急性を重視し、対象としている群落の性質について、

- 1) 原生自然としての価値のみならず
- 2) 二次的自然としての価値
- 3) 保護上重要な種のハビタットとしての価値

の3点があげられています。

1)については、以前からあった貴重度あるいは保全・保護重要度の基準なのですが、2)と3)については、既存の文献では、あまり見られなかった内容です。

この、2)や3)は一体何を意味しているのでしょうか？ いろいろな解釈があるとは思いますが、私を感じたことを述べてみたいと思います。

2)については、二次的自然が固有な生物種を保有すること、多くの野生生物の生存・種族維持にとって、固有の価値

を持っていること、人の健全な生活・生存にとっての意味があること、等の価値があげられています。

二次的自然の中には、落葉広葉二次林として、薪炭林のように、人間の活動により、維持・存続してきた植物群落もあります。

こうした落葉広葉二次林の中には、カタクリやイチリンソウ等の春植物が生育している場合もあります。これら春植物は、落葉広葉二次林に「固有」ではありませんが、同じ二次的自然でも、シイ・カシ萌芽林のような常緑広葉二次林に生育することは極めて稀な種であり、落葉広葉二次林との結びつきが極めて強い生物であると言えるでしょう。

このように考えてみると、人間の干渉抜きにしては、決して維持しなかったかもしれない植物群落があり、生物が生活している、と言えるのではないのでしょうか？

また、こうした、生物学的な重要性のみならず、「武蔵野の雑木林」のように、二次的自然の中には、その土地の文化や生活習慣を表す文化財的な要素が含まれ、それが、その土地の代表的な郷土景観となっている場合も

あるのです。これまでに、上記のような視点を加味した群落の評価がなされてきたかどうかは、おおいに疑問が残るのですが...

3)については、植物のみならず、広く生態系の保護・保全を考えるうえで、最近、何かと話題になる猛禽類等、貴重な動物についても配慮することが、必要不可欠になってくるのではないのでしょうか？

本書の発刊により、前述の2)、3)の概念が公のものとなったため、「群落」のみならず「種」においても、評価手法に何らかの変化が生じる可能性があります。

「自然環境技術アセスメント技術マニュアル」(自然環境アセスメント研究会編著 1995)に示されている「自然環境のアセスメントは、それぞれの地域環境特性に応じてそれぞれに調査計画を立案しなければならないオーダーメイドの性格を持つもの」であることを認識し、より実効性のある調査を行うための参考書として、本書は大きな力を発揮するのではないのでしょうか？ とはいえ、正直なところ、まだ十分には本書を使いきれない状態です。今後もいろいろな情報が見えてきそうな気がしています。

(本社自然環境調査室・根本淳)

環境学習の現場から ...

都市農業公園

市街地をフィールドとした自然観察会

当社では'94年5月から1年間にわたり、東京都足立区・都市農業公園の自然環境館の開館準備と開館後の管理・運営を行った。開館までの半年間は主に館内ハードの整備を行い、開館後は一般参加者を募集しての自然体験講座や、学校や各種団体を対象としたプログラム提供、館内の展示プログラムの作成など、ソフト面の開発に力を入れた。また、開館に前後して地域住民を対象に自然環境館の企画・運営をサポートするボランティアの人材育成講座も開催した。

自然体験講座は全16回開催したが、その中で私が特に印象に残っているのは自然が多いところに出かけるものではなく、市街地をフィールドとした自然観察会である。

町歩きは 発見の喜び

特に何があるというわけでもないような市街地をフィールドとした自然観察会というのは、とても地味なもののように思いますが、思いがけない場所で思いがけない発見をしたり、今まで気がつかなかったものが急に色鮮やかに見えてきたりと、思いのほか盛り上がりを見せるものです。その時のテーマは「公園周辺の市街地を歩いて春らしい草花や昆虫を探して観察する」というもので、参加者が3名とごく少人数ではありましたが、驚きと発見に満ちた時間を楽しむことができました。都営住宅の花壇では園芸植物の陰で花を咲かせているカタバミやノボロギク、児童公園の植え込みのわきには春の七草としても馴染みのナズナやハコベ。木の幹も、よくよく見れば小さなクモが張り付いていたり。なんてこと

はない生きものたちも知りませんが、アスファルトの隅や木の陰でも立派に生活している姿を発見すると、やはり嬉しくなってしまうものです。「自然体験」というと遠くの山や海などの自然の豊かな場所を想定してしまいがちですが、身近な場所でも心豊かな自然体験は可能なのです。普段歩く速度よりもはるかにゆっくりとした歩調で歩けば、それだけでも新しい発見があるのです。小さな小さな、それでいて薄水色のロマンティックな花を咲かせるキュウリグサに、こんな小さなかわいらしい花があったなんてと驚く参加者や、ルーペでホトケノザを丹念に観察していた女性は、微妙な花の

濃淡に感激していたり。そんな風に参加者が身近な自然を再発見する姿を目の当たりにして、一緒に分かち合うことができるというのもまた嬉しいものです。

当然のことのようですが、見ないものは見えません。気をつけないと気がつかないこともあります。日々足早に通り過ぎてしまう日常では、多くのものを見落としているように思います。自然観察会は、自然に関する知識を与える場と言うより、むしろ、参加する人の自然に対して開かれていなかった目を開かせるための場であり、今まで気がついていなかったことに気がつくようになるための場ではないでしょうか。

(本社業務推進室・加藤奈津江)

【都市農業公園】

足立区鹿浜の荒川と新荒川の合流部と首都高速に囲まれた環境に位置し、(財)足立区水と緑の公社が管理運営にあっている。昨年秋のリニューアルオープンに伴い、水田や畑、古民家など従来の施設の他に、陶芸や染色などが体験できる工房棟、熱帯温室とハーブ園が併設された緑の相談所、そして地域住民の環境学習の拠点となる自然環境館が新たに開設した。「自然と遊ぶ、自然に学ぶ、自然と共に生きる」をテーマに、農業体験だけではなく様々な体験学習を通して、自然と環境にやさしい暮らし方について来園者に理解してもらうことを目指した公園である。

公園への交通

- ・JR赤羽駅よりバス
- ・東武伊勢崎線西新井駅よりバス

本文の観察会で参加者に配布した資料の一つ(右図)。このほかに、その日歩く周辺の地図と課題シートが配られた。普通に歩けば1時間もかからないくらいの行程を、4時間近くかけて歩き新しい発見を楽しんだ。

